

さあ、信じられる日本へ。



被災地支援活動

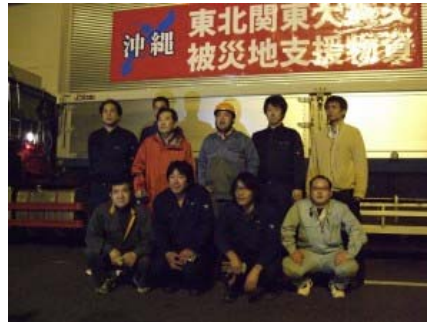
2011年3月11日金曜日の地震発生から1週間後の19日土曜日。
前日の18日までに緊急車両の申請を済ませ、東北自動車道が宇都宮から先が、まだ通行止めの中を一路仙台へ。東北自動車道は、上りも下りも全国からの警察や消防の車両ばかり。我々は、支援物資を積んで仙台は、若林区で宮城・岩手両県に支援活動しているグループに託し、その後、福島県の南相馬市へ向けて南下しました。

*ツイッター @loveyassy <http://twitter.com/loveyassy>

*PC アドレス tanaka@nippon-dream.com

3月19日(土)

22:40 東京都 江東区



お台場の先、青海埠頭。沖縄・関東・尼崎で調達したオリオンビール特製のミネラルウォーター、離島で汲み上げたミネラルウォーター、黒飴、紙おむつ等をトレーラーに連結。資生堂の池田守男元会長から託された、ドライシャンプーを始めとする物資も搭載。都心のオフィス街でランチボックスをしている、山口健司代表取締役率いる(有)アジアランチも避難所での炊き出しのため、ともに出発。

3月20日(日)

6:30 宮城県 仙台南部道路 仙台若林 JCT 手前 今泉 IC 付近



夜が更けて明るくなり最初に目の当たりにした光景。ここは、仙台湾から約4kmも内陸の土地で、さらに仙台東部道路の高くなっているところより西側(内陸)にあるにもかかわらず、多くのがれきが流れ込み海水の浸水があったものと見られる。

7:00 宮城県 仙台市 若林区 大衡運送㈱仙台営業所



ここでトレーラーから物資を分けて各方面に配送。

10:00 宮城県 仙台市 青葉区 仙台中央郵便局



輸送のスペシャリストにも物資を託し被害の状況を確認。

11:00 宮城県 仙台市 若林区 仙台荒浜郵便局周辺



ここは、仙台湾より貞山堀※1を隔て200～300mのところ。
当あたりは、全てのものが津波で流され跡形もない状況。

※1 貞山堀（貞山運河とも言う） 伊達政宗が仙台開府のときに材木や物資を運ぶための「木曳堀」を掘削したのに始まる。約 280 後の日本最初の近代港湾建設の東松島市から石巻に伸びる野蒜築港付帯工事「野蒜運河」でしめくられる。仙台湾岸に沿う総延長 49 km に及ぶ日本最長の運河。

13:30 福島県 相馬市 相馬郵便局



仙台から名取を通り県を跨いで福島県の相馬市へ。ここでも物資を託し各地の被害状況の確認。

14:40 福島県 南相馬市原町区 南相馬市役所



更に南下し、南相馬市へ。桜井市長に面会し被害だけでなく物資が不足しているとのこと。

15:30 福島県 南相馬市原町区 小川町体育館



南相馬市役所から程近くにある体育館。冷たい床に十分とは言えない量の物資が。

16:20 福島県 南相馬市原町区 南相馬市立原町第一小学校



3月の下旬とはいえ、寒い学校の体育館。皆、厚着し身を寄せて凌いでいました。

17:20 福島県 相馬市 南相馬市指定避難場所 旧相馬女子高等学校



再び北上し南相馬市の指定避難所の廃校になった旧相馬女子高等学校に。布団が一人一枚やっと敷けるような狭い教室で皆が、絶望感でいっぱいでした。積んできた物資を出来る限り多くの避難されている方に届けながら、被害の状況を単に視るだけでなく直接お聞きもしました。

18:00 福島県 相馬市 相馬市役所 災害対策本部会議



旧相馬女子高等学校から近くの相馬市役所。災害対策本部の会議に参加し立谷市長にドライシャンプーと消毒液を。資生堂の池田守男元会長から託された、ドライシャンプーと消毒液は、昨日18日に埼玉県は加須市の物流倉庫に受け取りにいきました。この日は、野宿も覚悟していたのですが、奇跡的に相馬駅前のビジネスホテルに空室があり宿泊。避難所で過ごしていらっしゃる方を思うと申し訳ないほどよい環境でした。

3月21日(土)

9:10 福島県 南相馬市原町区 南相馬市役所



3月26日0A分、BS11田中康夫のにつぼんサイコー番組収録。桜井市長、出演。平成の“棄民”を見捨てるな！南相馬からの報告

11:45 福島県 相馬市 南相馬市指定避難場所 旧相馬女子高等学校



避難している方々からも調理にご協力をいただき炊き出しをしました。
(有)アジアンランチの山口さん。毎日、ランチボックスをしているだけあって流石に手際よくみなさんに召し上がっていただきました。

多忙の中、市長の桜井さんも訪れてくださり被災者の皆様にご挨拶。
お部屋から取りに来られない方には、それぞれが、協力し合ってお届けいたしました。
廃校の校舎だけに壊れた机の板など、お盆代わりになど生活の知恵というかそれぞれが、工夫をして暮らしていらっしゃいました。

3月27日(日)

8:00 福島県 相馬市 駅前のホテルから



党のホームページで支援活動を知り「何か出来ることは」とご連絡をいただいた立川市に在住の方と福島県の浜通りに入りました。ご自分が所有する2tトラックをお持ちいただきとう本部に寄せられた物資の搬送を一緒にしていただきました。

写真は西の方角で太平洋を背にしているため津波の被害は全く見受けられません。
ところどころの屋根がブルーシートで覆われていること意外、まるで何もなかったかのような穏やかな景色。
この風景からは、放射能問題をも感じられないほどでした。

10:15 福島県 南相馬市原町区 災害ボランティアセンター(原町区福祉会館)



最初の被災地への出発前にツイッターでお知りになられたと、介護用品やベビー用品等の衣類で有名な日本エンゼルの代表取締役である萱場和夫氏直々に託された防寒具をお届けしました。江東区の木場にある倉庫へ受け取りに行った際には、100箱を超える段ボール箱を丁度集荷に来ていた佐川急便のトラックで党本部までお願いをされ運送代もご負担くださり大変なご協力をいただきました。佐川急便の方にも震災後、多忙な中、無理を言って仲間のトラックもお手配いただきました。

11:00 福島県 南相馬市原町区 南相馬市立原町第一小学校



前日も訪れた原町第一小学校にも防寒具を搬入しました。



原町区から北に約10kmにある鹿島区。南相馬市立鹿島中学校にも搬入。

12:30 福島県 南相馬市原町区 南相馬市役所



買い貯めで不足していたガソリン。給油できない可能性があったため携行缶に用意していたガソリン。帰りの片道分を残し余りは、市役所の公用車用に分けて帰りました。被災地では、東京よりもガソリン不足が深刻で大変に喜ばれました。